

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

豊能町教育委員会

はじめに

本調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、学校における教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、平成19年度より実施されています。

今年度は、令和7年4月17日(木)に悉皆調査として実施され、本町は、全小学6年生(4校73名)、全中学3年生(2校96名)が参加しました。

調査内容は、教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)と生活習慣や学習環境等に関する調査が実施されました。

■全体概要

小学校では、国語・算数・理科ともに全国平均を下回りました。

中学校では、国語・数学ともに概ね全国平均で、理科は下回りました。

※ただし、本調査において測定できる学力は、特定の一部です。

	教科 (設問数)	令和7年度(今回)				令和6年度 (全国比較)	
		豊能町	大阪府	全国	全国比較		
小学校 6年生	国語 (14)	61.0	65.0	66.8	- 5.8	国語 (14)	+0.3
	算数 (16)	56.0	58.0	58.0	- 2.0	算数 (16)	+1.6
	理科 (17)	51.0	55.0	57.1	- 6.1	R4 理科 (17)	- 0.3
中学校 3年生	国語 (15)	55.0	52.0	54.3	+0.7	国語 (15)	- 0.1
	数学 (16)	48.0	47.0	48.3	- 0.3	数学 (15)	+0.5
	理科	497	487	503	- 6.0	R4 理科 (17)	- 3.3

※中学校理科は、一人一台端末を利用したオンライン(IRT方式)で実施されました。IRTとは、生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。

*令和7年度の調査問題は以下の文部科学省のホームページに掲載されています。

国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

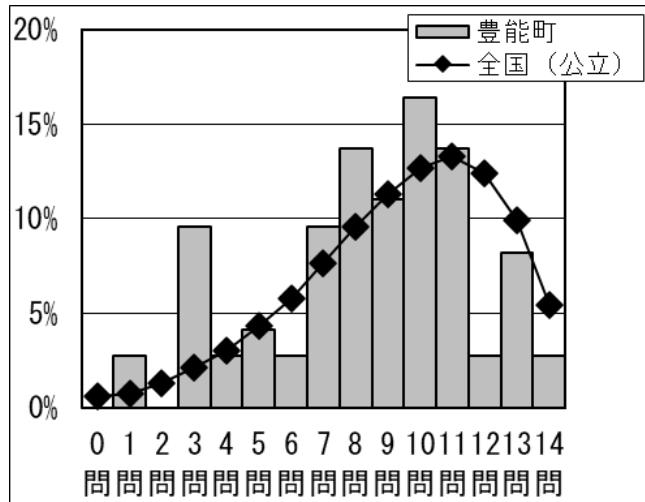


■教科に関する問題の調査結果概要

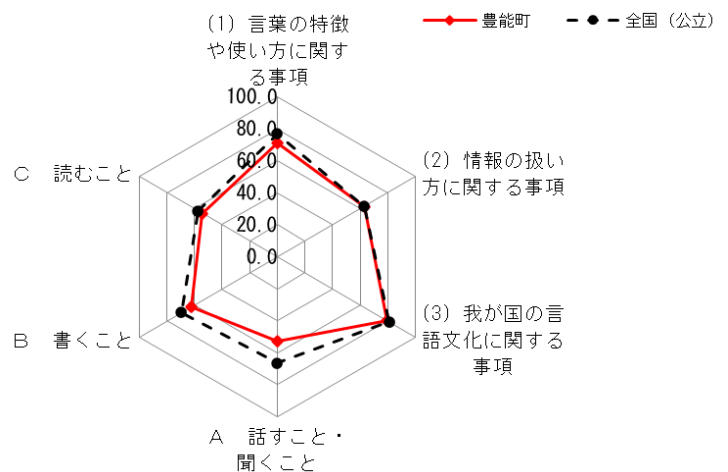
1. 小学校 国語

情報と情報の関連付けの仕方、語句と語句との関係を理解し使うなどの情報の扱い方に関する問題については、概ねできている。「話すこと・聞くこと」では自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることや、話し手の考えを比較しながら自分の考えをまとめることに課題がある。

国語



正答数分布グラフ(%)



領域別平均正答率(%)

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		豊能町	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.2	77.0	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	63.0	61.5	63.1
	我が国の言語文化にに関する事項	79.5	80.3	81.2
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	53.0	65.0	66.3
	書くこと	62.1	67.1	69.5
	読むこと	54.5	56.1	57.5

《指導改善に向けて》

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることや、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして情報を見つけることに課題がある。

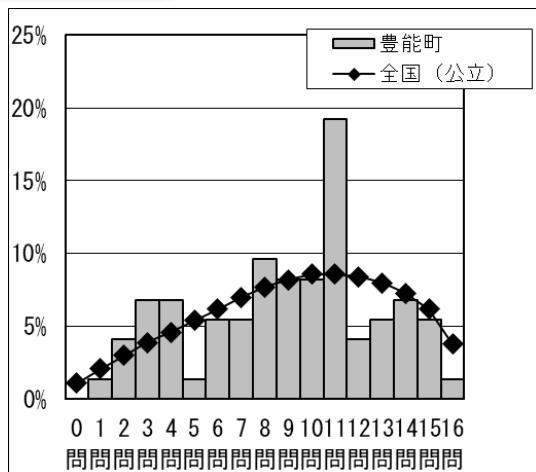
日常生活の中から話題を決め、集めた材料から必要な事柄を選んだり、その内容を検討したりする力をつけていく必要がある。また、話し手が伝えたいことと、自分が聞く必要のあるところの両面を意識しながら聞く力をつけ、さらに感想や考えをもてるように指導していく。

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係、言葉の意味、働き、使い方に着目して捉えたり、問い直したりして、言葉による見方、考え方を働かせていく授業を行う。

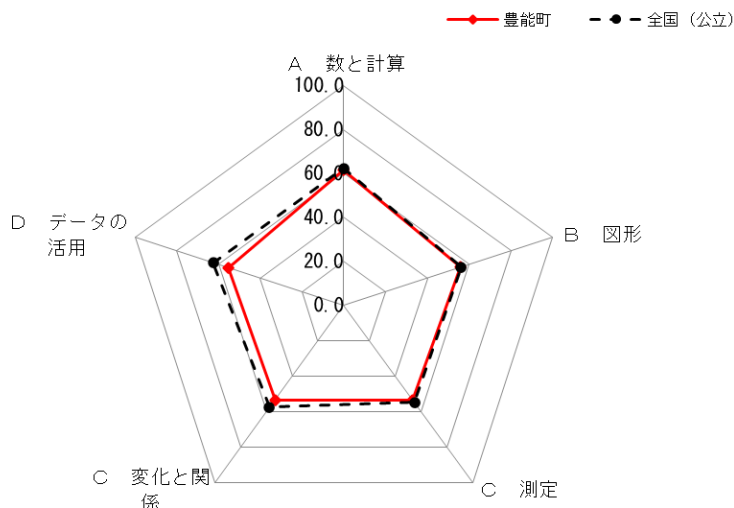
2. 小学校 算数

異分母の分数の加法の計算については概ねできている。「データの活用」では、目的に応じて適切なグラフを選択する、二次元の表から条件にあった項目を選ぶことに課題がある。

算 数



正答数分布グラフ(%)



領域別平均正答率(%)

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率(%)		
		豊能町	大阪府	全国
領域	数と計算	61.6	62.4	62.3
	図形	55.8	55.7	56.2
	測定	53.4	53.8	54.8
	変化と関係	53.4	57.3	57.5
	データの活用	55.1	61.5	62.6
評価の観点	知識・技能	65.0	65.1	65.5
	思考・判断・表現	45.0	47.9	48.3

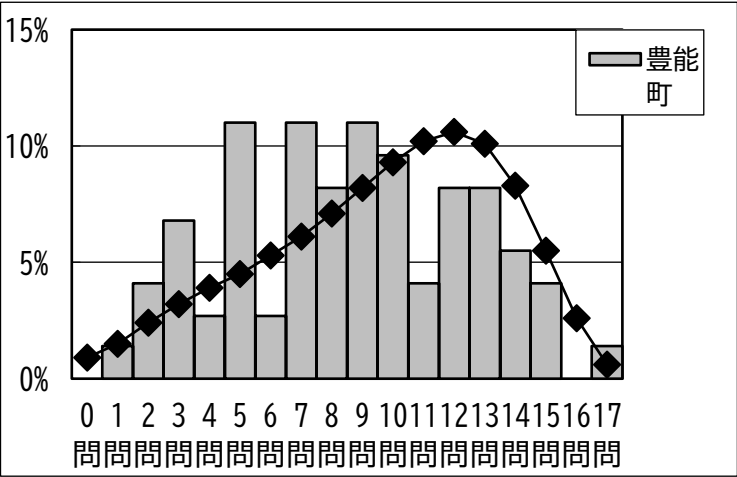
《指導改善に向けて》

複数の領域がまたがる問題を、これまで学んだ知識及び技能を働かせて解く問題に課題がみられる。目的に応じて数、式、表、グラフ等を活用し、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして、これまで学んだ知識及び技能等と関連付けながら考えることを授業の中で意識し、取り組んでいく必要がある。生活の中から自分で算数の問題を見出し、問題を自立的、協働的に解決し、その過程を自分で振り返りながら、得られた結果を捉え直したり、新たな問題を見出したりして、考えを深めていけるような授業を行っていく。算数で学んだことを日常生活で活用できるような学習を行う。

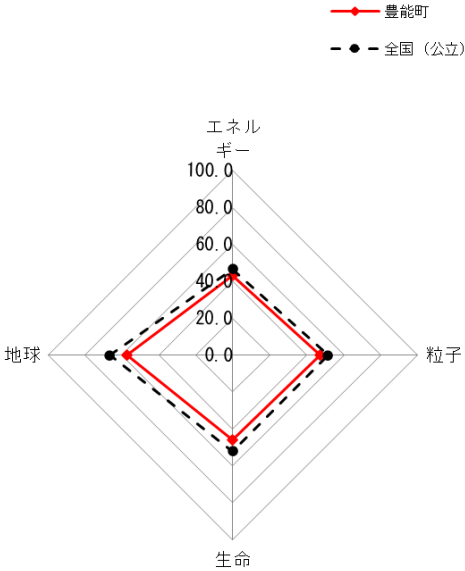
3. 小学校 理科

「エネルギー」を柱としている領域の知識については、概ねできている。「粒子」を柱とする領域、水の蒸発・結露など理科に関する基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題がある。また、結果を基に結論を導いた理由を表現することにも課題が見られる。

理科



正答数分布グラフ(%)



領域別平均正答率(%)

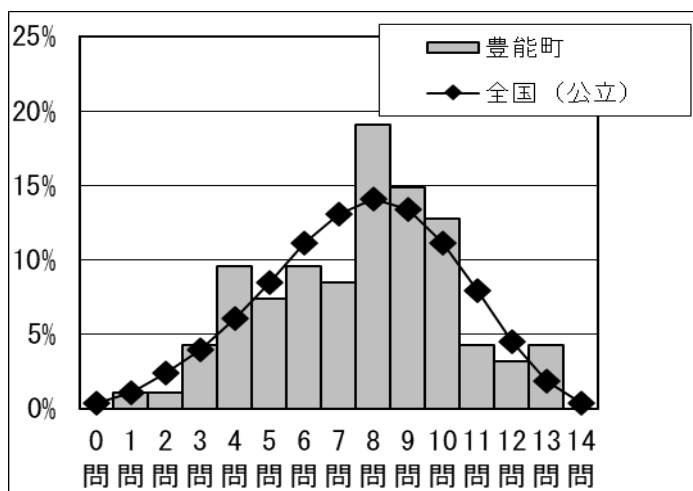
学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率(%)		
		豊能町	大阪府	全国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.2	43.9	46.7
	「粒子」を柱とする領域	47.0	49.4	51.4
	「生命」を柱とする領域	45.9	49.0	52.0
	「地球」を柱とする領域	57.1	63.9	66.7
評価の観点	知識・技能	51.5	52.7	55.3
	思考・判断・表現	49.9	56.2	58.7

《指導改善に向けて》
 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識を問う問題など、複数の単元について、一度に問われる問題に課題が見られる。「何が問われているのか」を正しく読み取り、「解決に必要な知識」を自分で選んで判断する力をつけられるようにしていく必要がある。
 また、「なぜそうなるのか」の結論を導くために、「比較」「関連付け」「条件制御」「多面的な考え」を行い、自分の考えを表現する活動の充実が必要である。児童が、関心や意欲をもって、自然に親しみながら自分から問いを見出し、追求していく活動の場を工夫していく。

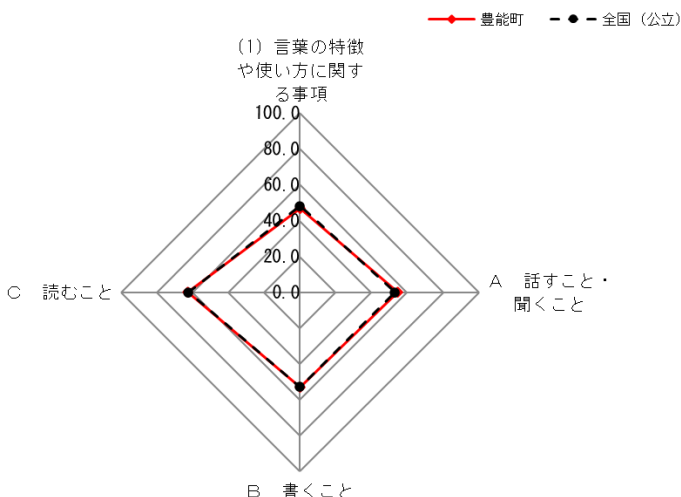
4. 中学校 国語

自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことや、論理の展開に注意して、話の構成を工夫する力がついている。言語の特徴や使い方に関する事項では、文脈に即して漢字を正しく使うことに課題が見られた。

国語



正答数分布グラフ(%)



領域別平均正答率(%)

学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
		豊能町	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	46.8	47.8	48.1
	情報の扱い方に関する事項	-	-	-
	我が国の言語文化に関する事項	-	-	-
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	54.8	50.7	53.2
	書くこと	52.8	50.5	52.8
	読むこと	62.4	61.2	62.3

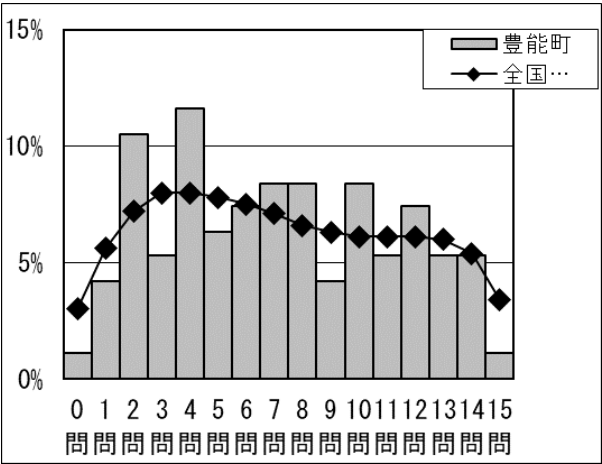
《指導改善に向けて》

語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解することを大切にしていく。語句を会話や文章の中で使うことを通して、社会生活の中で使いこなせるように確実に習得していけるようにする。また、話し合いを効果的に進めるために互いの発言を結び付け、合意形成にむけて考えをまとめたり、広げたり、深めたりする経験をさらに積み重ねていく。

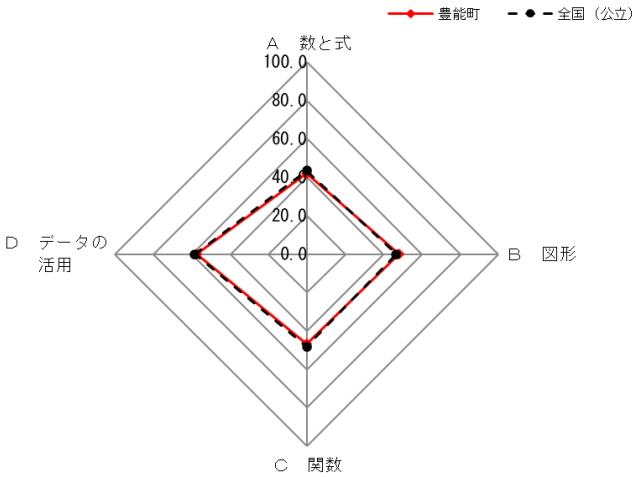
5. 中学校 数学

多角形の外角の意味や必ず起こる事柄の確率など、基礎的・基本的な知識については概ね理解している。事柄が成り立つ理由を説明すること、問題解決の方法を数学的に説明することについて課題が見られる。

数 学



正答数分布グラフ(%)



領域別平均正答率(%)

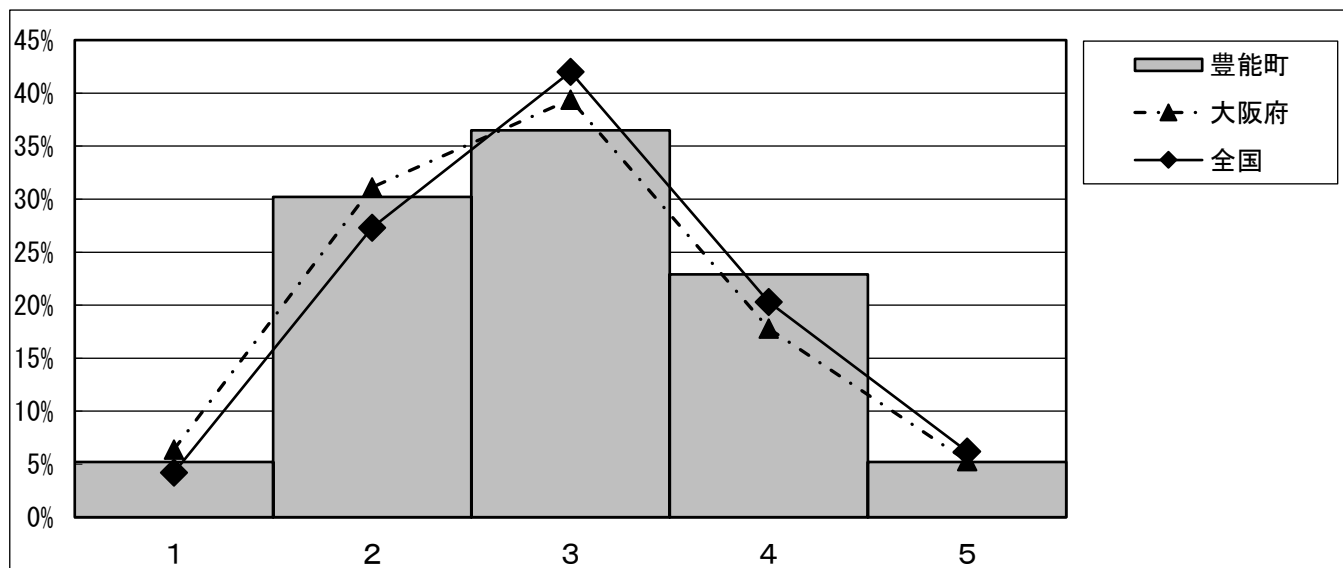
学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率(%)		
		豊能町	大阪府	全国
領域	数と式	42.1	42.4	43.5
	図形	47.9	46.2	46.5
	関数	47.0	46.3	48.2
	データの活用	57.5	54.9	58.6
評価の観点	知識・技能	56.1	52.9	54.4
	思考・判断・表現	35.1	37.4	39.1

《指導改善に向けて》
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できる力をつけるために、授業の中で数学的な表現を用いて説明する場面を増やしていく必要がある。数学的な表現処理の良さや、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の良さを感じながら、生活の中で自分で問いを見出し、構想や見通しを立て、試行錯誤しながら解決し結果を導く。さらに問題解決の過程を自分で振り返り、評価・改善していける経験を授業の中で充実させていく。

6. 中学校 理科

収集する資料や情報の信憑性についての知識及び技能は身につけている。身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題を設定する力に課題がある。

理科



中学校理科は、一人一台端末を利用したオンライン(IRT 方式)で実施。

*IRT とは、生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は、全日程共通と実施日により異なる公開問題、生徒ごとに異なる非公開問題があります。

全日程共通の公開問題における 学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率(%)		
		豊能町	大阪府	全国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	42.7	52.7	51.9
	「粒子」を柱とする領域	47.9	53.2	56.8
	「生命」を柱とする領域	22.9	27.7	29.7
	「地球」を柱とする領域	29.2	33.5	36.2
評価の観点	知識・技能	31.9	42.0	42.2
	思考・判断・表現	47.5	49.2	53.9

《指導改善に向けて》

身の回りの事象から、生じた疑問や見出した問題を解決するための課題を設定し、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈などを行う活動を積み重ねて科学的に探究する力を育成していく。そのために、データを図や表、グラフなど多様な形式で表したり、結果について考察したことを科学的な概念を使用して考えたり、説明したりする学習活動の充実を図る。

■児童・生徒質問紙の調査結果概要

※数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」等、肯定的な回答の割合(%)

【学習に対する関心・意欲・時間】

質 問 項 目	小学校		中学校	
	豊能町	全国比	豊能町	全国比
国語の勉強は好きですか。	60.8	+2.5	64.6	+6.7
国語の授業の内容はよく分かりますか。	81.2	-1.7	80.2	+3.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	91.9	+1.5	88.5	-0.2
算数・数学の勉強は好きですか。	68.9	+11.0	62.5	+8.7
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	82.4	+4.1	77.1	+6.8
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	94.6	+3.0	79.2	+4.0
理科の勉強は好きですか。	63.5	-16.6	56.2	-7.6
理科の授業の内容はよく分かりますか。	82.4	-6.5	68.7	-2.7
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	68.9	-11.0	65.6	+2.2
分からないことや、くわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	74.3	-7.4	72.9	-4.6
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学習した時間も含む)	29.8	+4.9	25.1	-5.7

【授業等の教育活動】

質 問 項 目	小学校		中学校	
	豊能町	全国比	豊能町	全国比
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。	68.9	-11.4	65.6	-12.1
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。	81.1	-3.8	87.6	+2.9
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	75.6	-7.7	91.7	+7.4
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	85.2	+7.1	77.1	-2.1
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	74.3	+5.7	57.3	-5.7
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	83.8	+6.0	72.9	+2.3
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	81.1	-6.9	94.8	+3.3

【規範意識及び生活習慣】

質 問 項 目	小学校		中学校	
	豊能町	全国比	豊能町	全国比
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	97.3	- 0.1	91.6	- 4.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	87.9	- 8.5	95.9	- 0.7
朝食を毎日食べていますか。	90.6	- 3.1	90.6	- 0.6
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	94.6	+3.6	93.7	+1.1

【自尊意識・挑戦心及び社会に対する関心】

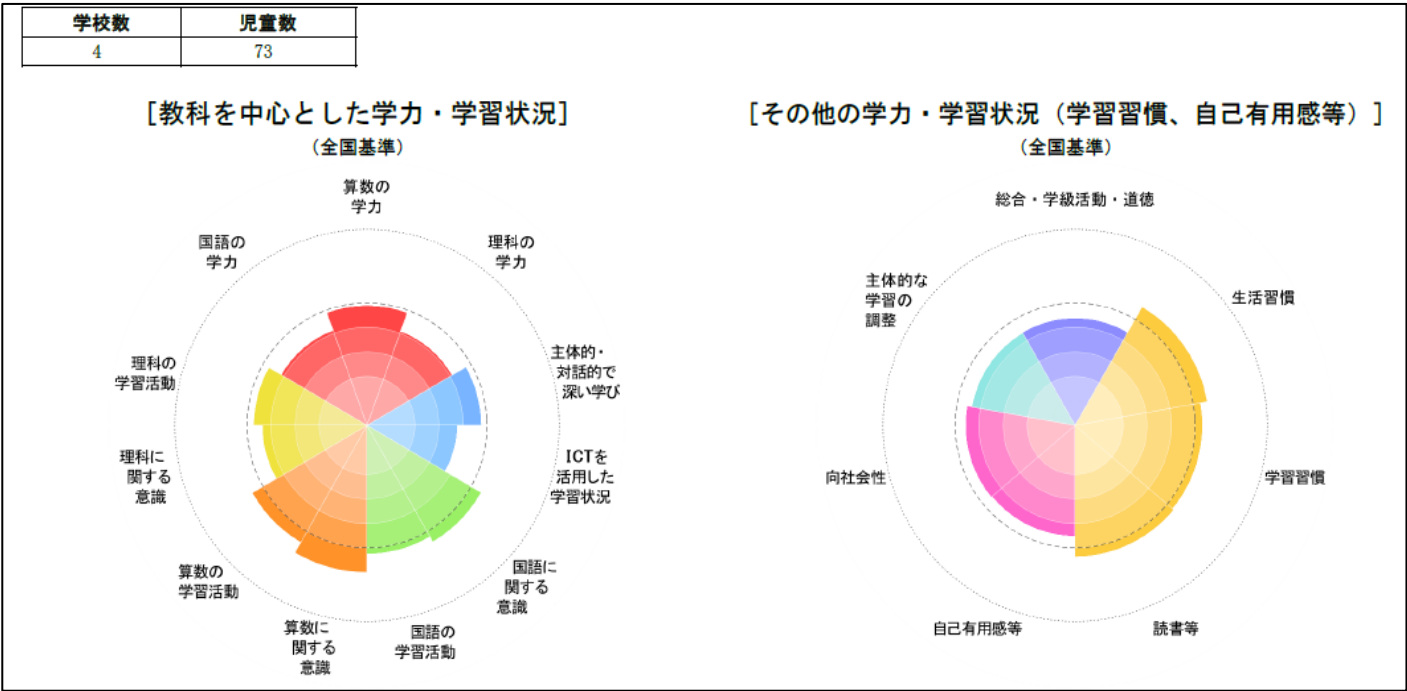
質 問 項 目	小学校		中学校	
	豊能町	全国比	豊能町	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。	67.6	- 19.3	79.2	- 7.0
将来の夢や目標を持っていますか。	86.5	+3.4	60.4	- 7.1
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	79.4	- 1.6	69.8	- 5.5

【児童・生徒の人間関係や先生・地域との関係】

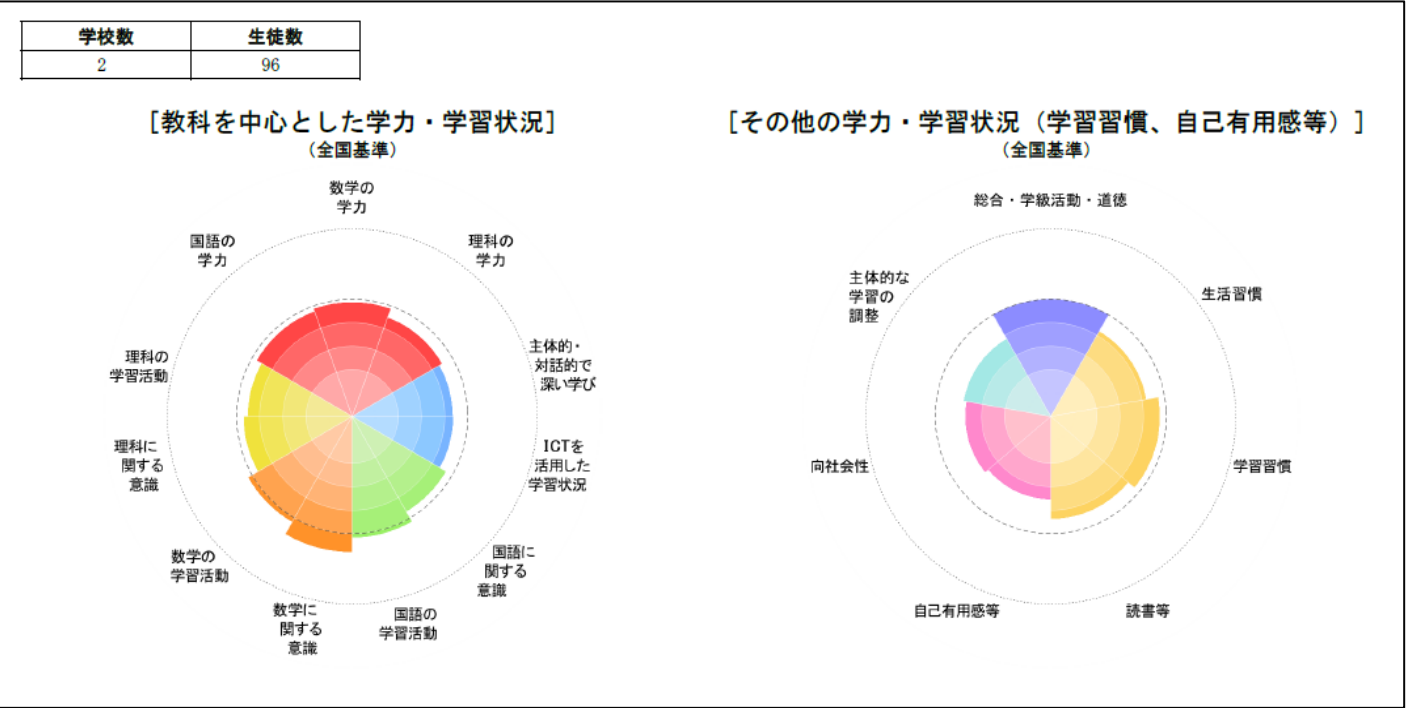
質 問 項 目	小学校		中学校	
	豊能町	全国比	豊能町	全国比
学校に行くのは楽しいと思いますか。	83.7	- 2.8	86.5	+0.4
友達関係に満足していますか。	83.7	- 8.0	85.4	- 6.0
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	93.2	+1.0	93.8	+1.6
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	87.8	+0.4	86.4	+3.3
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	66.2	- 4.4	59.3	- 13.9
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)	54.0	+14.6	34.4	+4.9

■ 調査結果概要【学力と学習状況について】

小学校



中学校



■ 調査結果概要【学力と学習状況について】

前項は、豊能町全体の学力や学習状況を全国を基準(内側の円)として、比較したものである。

小学校・中学校ともに、主体的な学習の調整や向社会性、自己有用感に課題が見られる。

「主体的・対話的で深い学び」については、アンケート結果から、「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」の項目で、小学校は全国平均を下回り、中学校では上回った。しかしながら「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という項目では、小学校が全国を上回り、中学校は下回った。このことから、話し合い活動を行うだけではなく、「話し合いの中身」についても分析していく必要がある。児童生徒が、「話し合うことによって、どのような力がついたか」の振り返りを行い、自己の成長に気が付けるようにしていく。

向社会性、自己有用感に関する「先生は、あなたの良いところを認めてくれると思いますか」の問いに対しては、小学校・中学校ともに全国よりも高いポイントだったのに対して、「自分には良いところはあると思いますか」の回答は、小学校で全国比-19.3ポイント、中学校でも-7.0ポイントと大きく落ち込んだ。学校と家庭が連携し、児童生徒が自分自身の良さに気が付き、自信を持てるよう取り組んでいく必要がある。

また、「友達関係に満足していますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という回答は、小学校・中学校ともに全国のポイントを下回っている。児童生徒をとりまく環境は複雑化し、学校以外のネット等の環境も影響を与えていると考える。今後も人間関係に難しさを感じている児童生徒の気持ちに寄り添っていくことが大切である。

「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)」の結果については、全国に比べて高いポイントである。地域の大人に授業や放課後で関わっていただいている成果である。今後もたくさんの大人に支えられている環境を活かしていきながら、家庭・地域・学校と一緒に児童生徒らが安心して過ごせる場所をつくっていききたい。

■ 課題克服のための今後の取組み

【豊能町 学力向上プランの基本方針を推進していきます】

1. 授業力の向上・改善

- ・主体的に学びに向かう力を育成するために、自ら課題を発見し、個々の課題や目標に合わせた学びを推進する。
- ・授業の中で、児童・生徒が「見方・考え方」を働かせながら思考力を高められるように授業研究を進め、学力向上担当者会で各校の取組みを共有する。
- ・知識の習得だけでなく、地域の豊かな教育資源を活用した体験的学習や協働的探究学習(とよの未来科など)を進め、生活の中で生かす授業を推進する。

2. 全校的・組織的な学力向上の推進

- ・研究指定校事業において研究校を指定し、実践を進める。また、その実践を町内教職員へ公開する。
- ・「校内相互授業参観」をさらに効果的にすすめていくため、「授業を見る視点」「授業の中での児童生徒の変化の見取り方」について検討を行い、「どんな力がついたか」を検証していく。

3. ICT 機器の活用

- ・ICT 機器を効果的に活用しながら、学習内容や学習方法を自己調整・自己決定して学習課題に取り組む、学びを深める。

4. 学習習慣・学習規律の育成

- ・「とよの学びのススメ」を推進し各校で自学自習に取り組み、児童生徒自らが学ぶ素地を育成する。

